

所 報

第 27 号 1996 年 8 月発行
発行人 翁 長 良 盛
発行所 沖縄県立教育センター
〒904-21 沖縄県沖縄市字与儀587番地
電 話 098-933-7555
F A X 098-933-3233

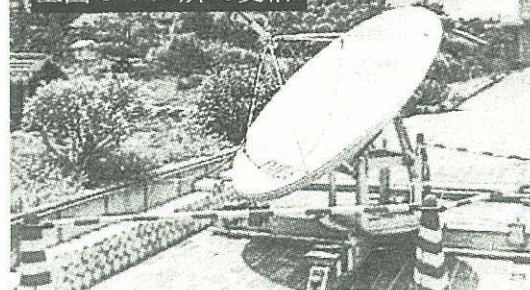
衛星通信を活用した研修

国立教育会館

学校を取り巻く諸環境の変化等を背景とするいじめ等の実態は、ますます複雑化・深刻化しており、学校におけるこれらの問題へ適切に対応できる実践的能力の要請が緊急の教育課題となっている。

そこで、国立教育会館が実施する講座の内容を衛星通信を通じて受信し、各都道府県等で行ういじめ問題に関する研修等に役立てる。当センターでは、「いじめ問題」に関する研修以外にも、「小中パソコン利用講座」で衛星通信を活用し、双方向（受信・送信）の形式

全国37カ所で受信



で研修をすすめてきました。

【いじめ問題講座】

- ・いじめ克服に向けて教育のあり方を問う
- ・いじめの心理的メカニズムとカウンセリング
- ・いま、学校教育に期待する

【コンピュータ講座】

- ・授業におけるコンピュータの活用
- ・コンピュータ活用による教育方法の改善と授業の実際
- ・マルチメディア社会と学校

目 次

衛星通信を活用した研修	-1-
「研究室だより」	
【社会科研究室】新しい学力観に立つ中学社会科授業の創造.....	-2-
【理 科 研 修 課】授業研究ゼミナール・中間検討会を終えて.....	-4-
天然記念物「シマチスジノリ」発見.....	-5-
シリーズ② 生きものたちの生活を通して教育を見る.....	-5-
【特別活動研究室】「小・中・高校特別活動実践講座」を終えて! ...	-6-
【農業教育分室】農業教育の充実のために.....	-7-
長期研修員からの便り.....	-7-

研究室だより

社会科学研究室

研究主事 安谷屋 守 松

新しい学力観に立つ中学社会科授業の創造

激しい変化が予想されるこれからの社会においては、生徒一人一人が主体的、創造的に生きることのできる資質や能力の育成を図ることが重要な課題となっています。そのためには、生徒一人一人が自ら学ぶ意欲を高め、自分の課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断したり、表現したりして、よりよく解決することができる資質や能力を育成することに重点を置くことが大切となっています。このような自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応できる資質や能力の育成を図る授業、即ち、“新しい学力観”に立つ授業を創造していくために、各中学校で様々な実践が行われています。そこで、今回はそのような授業の実践例を紹介したいと思います。

社会科学習指導案（EU諸国―国のわくをこえて結び付く国々）

授業者 西原東中学校 新里容子

単元の観点別評価目標

【社会的事象への関心・意欲・態度】

- (1) 古い歴史と伝統をもつヨーロッパ社会の特色を、日本との比較において捉え、EU諸国が国のわくをこえて結び付こうとしている理由を自分で調べようとする。
- (2) 統合をめざすEU諸国の結び付きを具体的に示す資料を進んで見つけようとする。
- (3) 調べたことを発表したり、互いに話し合ったりする中で国際社会の動きに関心をもつことができる。

【社会的な思考・判断】

- (1) 西ヨーロッパ諸国がEEからECへ、さらに、EU（欧州連合）へと発展し、国のわくをこえて結び付こうとしている理由、その効果、問題点を考えることができる。

【資料活用の技能・表現】

- (1) EU諸国が結び付こうとしている理由を、産業（農業・工業・貿易など）の動向を表す統計などの資料から読みとることができる。
- (2) 現在のEU諸国の統合への動きを調べ、捉えたことを新聞や紙芝居、パンフレット、TPなどで具体的に表現することができる。

単元の観点別学習状況の評価基準と評価方法

評価の観点	評価方法	十分理解できる（A）	おおむね理解できる（B）	努力を要する（C）
社会 事象 への 関心・ 意欲・ 態度	(1)発言 行動観察 学習計画表	(1)国が国のわくをこえて結び付こうとしている現実には、私たちにも関係のある国際社会の動きとしてとらえ、積極的にその理由を調べようとする。	(1)EU諸国が国のわくをこえて結び付こうとしていることを社会の課題としてとらえ、その理由を調べようとする。	(1)EU諸国がわくをこえて結び付こうとしている理由を調べようとしなない。
	(2)収集資料 行動観察	(2)EUの結び付きやその様子を表す写真や資料を、教科書や地図帳だけでなく、百科事典や新聞、雑誌などからも見つけられる。	(2)EUの結び付きやその様子を表す写真や資料を、教科書や地図帳から見つける。	(2)EUの結び付きやその様子を、見つけようとしなない。
	(3)行動観察 発言	(3)発表や話し合いを積極的に行い、今後の国際社会の動きに関心を持つことができる。	(3)発表や話し合いを行い、EU諸国の動きにのみ関心を持つことができる。	(3)発表や話し合いに参加せず学習内容に関心を持とうとしなない。

社会的 知識・理解	(1)形成テスト	(1)EUのあゆみや現加盟国を きちんと理解している。	(1)EUのあゆみや現加盟国を おおむね理解している。	(1)EUのあゆみや現加盟国を まったく理解していない。
	(2)ワークシート 形成テスト	(2)統合を目指しているEU諸 国の自然的・歴史的・文化 的背景の特色を共通性と多 様性という観点から把握す ることができ、人々の生活 産業についてきちんと理解 することができる。	(2)統合を目指しているEU諸 国の自然的・文化的背景の 特色を共通性と多様性とい う観点から把握することが でき、人々の生活や産業に ついておおむね理解するこ とができる。	統合を目指しているEU諸 国の自然的・歴史的・文化 的背景の特色を共通性と多 様性という観点から把握す ることができず、人々の生 活や産業について理解する ことができない。

単元の指導計画（8時間）

段階	時間・形態	学習活動と生徒の意識の流れ	指導の工夫・支援	観点別学習成果の達成	資 料
課題の設定	全 体	①地図や資料、写真などを用いて、日本と比較しながらEU諸国のようすを概観する。 ヨーロッパの国々って小さいんだな 町並みは古くて伝統を感じるな。 ②パスポートの目的、それを必要としない国の確認からEU（欧州連合）に気づき、成立までのあゆみを確認する。 パスポートって大切なんだな。 EU域内はパスポートがいらないんだな。 人や物が自由に 行き来できるんだな。 ヨーロッパの国々はまとまろうとしているんだな。 ③国境を取り除き、統合をめざすEU（欧州連合）に疑問をもち、共通課題を設定する。 なぜ、EU諸国は国のわくをとりのぞいて結びつこうとしているのんだ。	* 白地図を用意し、自然や国名などを事前に学習させ、取り組みやすいようにする * 診断的評価をもとにして、イメージや既得知識を深めたり、ゆさぶりをかけることによって、興味・関心を高める。 * パスポートの目的にふれ、それを必要としないEU諸国に注目させる。 * EUのあゆみを年表にまとめたり、TP資料を使って、生徒が把握しやすいようにする。	・ 掛地図 ・ 写真 ・ TP(1) ・ パスポート ・ 年表 ・ TP(2)	・ 掛地図 ・ 写真 ・ TP(1) ・ 自作年表 ・ TP(2)
	1 時間	④自分なりの予想を立てる。 15の国が一つにまとまると、国民にとって何か良いことがあるのかな。 自分の国だけではやっていけないのかな。 ⑤個々の学習課題を立てる。 ⑥共通課題を6つの側面から追求できるようにコースを設定し、コース選択する。 文化 生活 農業 工業 貿易 観光 ⑦自分の課題の予想を立てて、調べ方を決定し、調べていく見通しをもつ。 予想 → 調べられそうだな。 どうやって調べようか。 調べることを整理してみよう。 資料を探してみよう。 どうやってまとめるかを考えよう。	* 国境をこえる時に必要なパスポートがいなくなるとはどういうことかを考えさせ、ヨーロッパが一つに地域にまとまろうとしていることに注目させる。 * 共通課題の予想の焦点を絞り、個々の思いを大切にしながら課題として成立させる。 * 生徒の興味・関心に基づいてコースを選択できるようにする	・ ワークシート ・ ワークシート ・ ワークシート	・ カード ・ ワークシート ・ ワークシート ・ ワークシート
学習計画を立てる	1 時間	⑧自分の計画に従い、一人調べやグループ学習をすすめ、わかったことをまとめる。	* 生徒相互に情報交換ができるように配慮する。	・ 生徒の収集資料	・ 生徒の収集資料
追求する	ひとり	こんなことがわかった よし、調べていこう 友達に聞いてみよう ○○の面でこんな良い面があるから統合するんだ。 一つの国だけではこんな困った事があるからだ。 調べて分かったことを好きな方法でまとめて発表しよう。 分かったことをまとめよう。 ・ 作文に ・ 模造紙に ・ TPに ・ 劇 など			
	グループ 4 時間	⑨まとめたものの発表をもとに、みんなで確かめ合い、EU統合の目的と理由をつかむ。 文化 生活 農業 共通する 自由に移 自由に移 宗教。 動する農 動する農 共通する 産物。 産物。 食べ物。 市場の確 市場の確 自由に行 保。 保。 ける。 域内の農 域内の農 自由に行 業の保護 業の保護 ける。 工業 観光 域内での 域内での 資源の保 資源の保 護。 護。 市場の確 市場の確 保。 保。 他国への 他国への 流出。 流出。 貿易 観光 EUの支 外国旅行 援、ユー が容易。 ロポート 観光地と の有効利 しての発 用。 展。 ライン用 観光収入 の重要性 の重要性 アメリカ合衆国やロシア、日本などの国に負けないように、ヨーロッパの国々が協力体制をしくことによって、経済的成長を図ろうとしている	* 発表から、新しい事実や意見を見つめるようにさせる。 * 自分の調べた事実や意見と比較させる。 * 国際社会の動きに興味・関心をもち、新聞、ニュースなどから新しい情報を得るように導く。	* 互いの発表を聞いて、国際社会の動きに興味をもつ。 [関・意・態] [行動観察・発言] * EU諸国の人々の生活や産業を理解することができる。 [知識・理解] [ワークシート]	・ ワークシート
広 げ る	全 体	⑩EUの統合が実現した場合、問題となることをみんなで話し合い、把握する。 域内では農産物が自由に売買できるので、小規模農家はつぶれる。 域内全体が市場となるので、工場は工業活動が活発なドイツに集中する可能性があり、そうすれば他の国の工場がつぶれる。 労働者が自由に他国へ行けるので、自国の失業者があふれる。 ⑪日本人として、EU諸国との今後の関わりについて自分なりの意見をまとめる。	* 学習計画を具体的に立てることができる。 [関・意・態] [学習計画表]	・ 学習計画表	・ 学習計画表
	1 時間				

授業研究ゼミナール

理 科 研 修 室

この授業研ゼミは、他課にない理科研修課独自の研修会である。一年の長期研修生をレポーターにして理科全員が集まって議論し合う有意義な場である。半年の長研生も積極的に議論に加わり、授業をどう作るか評価は？と自分なりの考えを話したり、また、質問して勉強ができる。

日程は、次のように計画されている。

● 5月30日（木）狩野哲郎

学習指導案等についての理論と実践

● 6月20日（木）東恩納照男、原戸鉄二郎

授業実践及び授業研究における授業評価の理論と実践

● 7月18日（木）登川操、岩本利章

授業計画等についての理論と実践

● 9月20日（金）山内昌雄

授業参加等の理論と実践

追加ゼミ 7月26日（金）金城徳子、狩野哲郎

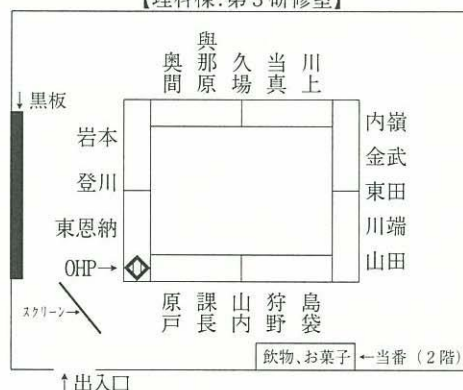
観点別評価の理論と実際

第一回目は、「学習指導案等についての理論と実践」をテーマにして、5月31日にレポーターを初等理科の狩野哲郎先生で実施された。司会は、物理の原戸先生、記録を生物の東恩納先生と仕事を分担して行った。25分の報告後に質疑その後討論をした。「円形指導案の事例」「授業するときに教材・児童・指導の明確化すること」などが印象に残った。

第二回授業研ゼミナールが6月20日に理科棟第三研修室で行われた。

次図のように全員が座った。いろいろな話が出て時間があっというまに過ぎて指導助言の時間が少なくなり残念であった。次回からは、9時から始めて十分に時間を確保したらと思う。ぜひ検討して欲しい！

【理科棟:第3研修室】



第三回目は、7月18日に「授業設計等についての理論と実践」について実施します。レポーターは、登川操と岩本利章の両先生である。

他課の長研生のみなさん！ 歓迎しますので、参加して下さい！

中間検討会を終えて

4月の研修計画検討会から2ヶ月が過ぎようとする7月10、11日に中間検討会がありました。研修は順調に進んでいると思いますがどうでしょうか。

初期のテーマは次の通りでした。

◆ 島袋治子（恩納小学校）

児童生徒が主体的に動く家庭科学学習指導の工夫
(コンピュータを利用したレシピ作りを通して)

◆ 川端 修（北中学校）

創造性を育てる題材の開発
(電気領域における発展教材の開発を通して)

◆ 金城徳子（真志喜中学校）

電流の基本的概念を形成させる指導法の工夫
(電流のモデル化を通して)

◆ 狩野哲郎（米須小学校）

科学する心を喚起する学習指導の工夫
(第6学年「星の動き」における教材・教具の開発)

◆ 山田真弓（向陽高校）

地学ⅠB、Ⅱの探求活動及び課題研究の指導工夫
(微化石：有孔虫の教材・教具の開発を通して)

◆ 東田盛善（八重山商工高校）

身近な自然・事象の教材化
(沖縄本島中部の湧水の水質検査を通して)

◆ 東恩納照男（北美小学校）

野外観察を取り入れた授業の工夫
(校内の動物のくらしを通して)

◆岩本利章（コザ小学校）

基礎・基本の定着を図る指導法の工夫
（第5学年「太陽と月の動き」を通して）

◆原戸鉄二郎（安波中学校）

光と音の効果的な指導法と教材・教具の工夫
（身近な素材とコンピュータを利用して）

◆登川 操（安田中学校）

思考力・判断力の育成を目指す指導の工夫
（身の回りの物質とその変化の学習を通して）

◆山内昌雄（平安座中学校）

EM技術を活用した「栽培」領域における事例研究

天然記念物 「シマチスジノリ」発見

6月21日（金）の琉球新報社会面のトップに掲載された記事は、「東田先生」が湧水の水質検査のサンプリング中に偶然発見し、生物研究室の久場主事がシマチスジノリ（紅藻類）であることを確認した。

宜野座村の大久保海岸は野外実習で来た場所で近くの大久保ガーナで貴重な天然記念物を発見したことは偶然なのだがおもしろい。普通ならば、見過ごされやすいことも、自然を深く観察する目と研修期間中ということが幸いした。

久場主事、東田先生 ご苦労さん！

シリーズ② 生きものたちの生活を通して教育を見る

【理科研修課長】

上 門 清 春

…種子が発芽し開花結実する過程に教育が見える…

植物の種（子）は、地上に落ちれば、そこで自ら芽を出し成長します。そしてやがて開花・結実しますが、それは、種子の力だけではできません。まず発芽には、水分や温度が必要です。発芽した幼植物は、胚乳や子葉に蓄えられた養分を利用してある段階までは成長します。しかし、その後は、土からの養分や太陽の光がなくては開花・結実しません。

このように、種子が発芽して花を咲かせ実をつけ、そして一生を終えるのには、生まれながら持っている能力に、その後の環境からの援助が加わることによって達成されるのです。環境の援助は、植物自身がまわりから獲得するものです。だから、植物の運命は植物をとりまいて環境の善し悪しで決まるわけです。

これに対して陶器等の人工物はどうでしょう。植物の場合とは全く違うことに気づくと思います。土に水を加え、よく練って形をつくり、乾かして土器にします。さらに、その土器に火を加え、焼いていくと陶器ができあがります。このように、土器や陶器という人工物の場合には、作者の思い通りの形になるように、全て外から力を加える、という働きかけが必要になります。

さて、「教育」はどうだろう。

人間のもっとも基本的な文化といえる言葉は、子どもは無意識のうちに覚え、自分を表現していきます。このように「生きる力」も、親や教師の一方的な強制（相手のことを考えない、の意で）によって育てるのはなく、環境と関わる中で自然に身につけさせたいものです。

「生きる力」とは、自立（自律）とまわりの自然や社会といった環境と共存して生きていく力です。このことはまさに現代社会の目指す地球的な規模の環境学習の視点でもあるわけです。

親や教師はともすれば、本人の意志とは無関係に、個性を無視して、自分の理想とする教育をやりがちです。教育を長い目で見ると余裕を持ちながら、子どもの手とり足とりではなく、植物の生育のように、環境との関わりの中で「自分の力で育っていく力」を身につけさせて欲しいものです。そのためにも、児童生徒一人一人をとりまく教師や親・社会は、個性豊かな児童生徒への援助の仕方を工夫しなければならない、ということになります。

「小・中・高校特別活動実践講座」を終えて！



特別活動研究室

目 的：学校教育における特別活動の意義について深めるとともに、児童生徒の学校生活に充実と潤いをもたらし、豊かな学力を身につけさせるため、学級経営の基盤となる特別活動の効果的な指導法や実践事例等の研修を通して指導力の向上を図る。

期 日：平成8年7月22日(月)～26日(金) 5日間

対 象：教諭(小学校77名、中学校53名、高校20名)原則として学級担任とする

研 修：「講演」高階玲治氏、鹿嶋研之助氏、山里景淳氏

内 容 「講義」金城光男氏、當銘清光氏、「演習」レクレーション・浦崎猛氏
「体験学習」ボランティア 「実践事例発表」

受講者の声(感想)より

今回、実施された短期研修講座は特別活動研究室(去年の特別活動、進路、経営3つの研究室が統合されて出来た)にとって、初めての取り組みでありました。

短期研修を終えた今、研修内容運営等を見直し、次年度に向けてさらに魅力ある研修となるよう種々計画していきたいと思います。

特別活動を活発にすることによって

児童生徒一人一人が
生き生きと個性を発揮し
生き生きとした集団を形成し
それぞれに自己実現を味わう

特別活動の研修を通して

それぞれの学級担任が
自分の特徴を生かし
個性豊かな魅力ある
人間味のある
教師として成長することを願う

・これからの学校教育は、完全週5日制に向けてのスリム化が図られていくことが、必然になってくる中で大切なことは教育の内容をスリム化させることではなく、豊かな教育内容をどうカリキュラムの中に織り込んでいくか、そのための内容の選択、教科等の統合が重要になってきている事が分かりました。これからの教育計画は、クロスカリキュラム的要素をふんだんに取り入れた内容になって特別活動と教科等の枠が弾力的に広がっていくことを感じました。(小学校女教師)

・日本丸の進路はどこへ？教師は舵取り、それとも船員？社会の変化が進路指導に直結していることがよくわかりました。とてもすばらしい講演だった。(高校女教師)

・どの企業も“やる気のある人材がほしい”これはどの職種にも言えることだと感じ、“自分もがんばらなくちゃ”とやる気がわいて来ました。(小学校女教師)

・“本当に楽しかった”自然に周りの方との会話もはずみ、レクレーションの力って凄いなと思いました。これからも勉強してみたい。すぐにでも学級に戻りたい！『早く2学期コイコイ！』という感じです。(小学校女教師)

研究室だより

農業教育の充実のために

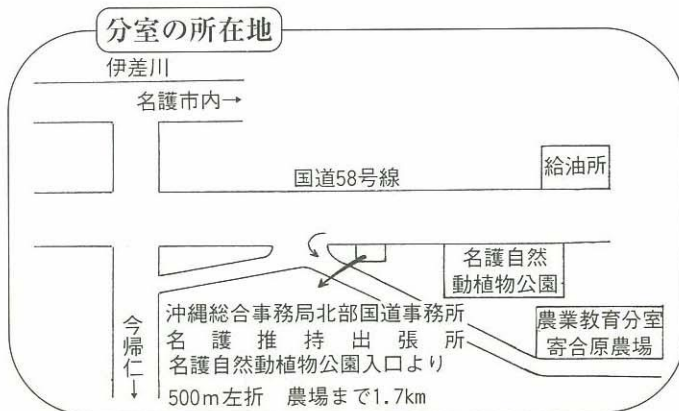
農業教育分室 指導主事 當山一男

こちら、農業教育分室。現在主事1名、助手1名、1年の長期研修員2名を含め4名のスタッフで頑張っています。農業教育分室は平成元年に山紫水明、風光明媚なヤンバル（山原）の地、名護市に設立されました。設置場所は名護市内より北方に約5km離れた県立北部農林高等学校寄合原農場内にあり、研修施設、農場も高等学校と一部共用しながら研修を行っています。

寄合原（よりあいばる）農場は広大な実習場で、牛の放牧場では白鷺が戯れ、和牛や水牛、与那国馬、豚（沖縄県産の黒豚アークもいるよ）、鶏等実に様々な家畜のどれもがいつも我が物顔でのさばっている感じがする。このような大自然（？）の懷に抱かれた地で研修員の先生方は各自の研究テーマを基に日々研究に取り組んでいます。

農業教育分室の業務内容は分室独自の長期研修員を対象とした農業における先端技術を取り入れた植物バイオ実験、沖縄県の亜熱帯気候の特徴を活かした熱帯果樹栽培講座、また、中・高等学校の先生方のための「初心者のためのバイオ講座」や親子のふれ合いを作る「親子園芸教室」等の講座も開設致しております。その他農業教育関係者のための研修、農業高校生の農業技術習得のための研修、農業教育に必要な研究機関や団体との連携を図りながら、本県農業教育の振興を図ることを主要業務としております。そのため、農業関係団体や農業関係に進学したい普通高校からの研修施設の見学希望等もあります。

皆さんも名護市にお寄りの節は農業教育分室を見学
してみたいはいかがですか。



長期研修員からの便り

南部農林高等学校 船越秀輝

「カー、カー」・「モー」・「ヒヒーン」・「コケコッコ」・「ブー・ブー」とにかく農業分室の朝は、そうぞうしい仲間達の鳴き声で始まります。農業分室で研修が始まって、もうすでに4ヶ月が過ぎようとしています。仲間達の朝の挨拶は、私にとって、やる気を起こさせる栄養剤みたいなものとなってきました。

分室での午前中の大半の仕事は、農場での調査・観察、一般管理です。10時頃になるとハウスの中は、40℃以上にもなり、灌水していても額からは絶えず汗がにじみでてきます。昼食前には、実習着から汗が絞りとれるほどになるのが日常です。

植物は、この私達の苦勞に嘘はつきません。むしろ、それなりの結果を出してくれて私達の心をいやしてくれるのです。これが農業教育の初めの一歩だと思います。科目「農業基礎」の中においても体験を通して、学ぶことを重要視しています。そして、自然の中でともに生きる一員として作物や家畜と接し「いつくしみの心」を育てることを第一としています。私は、この言葉が大好きです。しかしながら、この心を伝えるには、私自身まだまだ未熟であるためうまく伝えることができません。センターでの研修では、この心をいかに伝えるかも、私の隠れた研修テーマのひとつです。

また、「生きる力」を育てる教育の原点は、農業教育のなかにあるのではないかと思います。動物や植物を思いやる心から、生きるもの全てを思いやれる心が養え、そして、本当の生きる力を育めるようになるのだと思います。

最後に、調査観察は、大切な教育のひとつです。それでは、マンゴーを観察しながら、一番大切な食味試験と参りますか。それでは、みなさんぜひ分室を訪ねて下さい。元気ある仲間達とお待ちしております。

沖縄県立 教育センター 心身障害児 教育相談

こんなときに…

- ・ うしろから呼びかけてもふりむかない。
- ・ 指示や話が理解できない。
- ・ 手足の動きがぎこちない。
- ・ 体が弱く戸外で遊べない。
- ・ 発音が不明瞭で話し方がぎこちない。
- ・ おちつきがなく、集中しない。

…ご相談下さい。

■ 相談内容

- (1) 家庭における養育や躾けに関する事
- (2) 知能、身体、聴力、言語等の検査に関する事
- (3) 障害に応じた早期教育や訓練に関する事
- (4) 障害に応じた就学、進路に関する事
- (5) 専門医による診断や検査に関する事

■ 対 象

心身に障害を持つ（疑いも含む）幼児児童生徒の
保護者及び関係者



■ 嘱託医による医療相談

- | | |
|-------------|----------------------|
| ① 整 形 外 科 | 親 泊 元 信 (沖縄整肢療護園 園長) |
| ② 小 児 科 | 外 間 登美子 (琉球大学医学部助教授) |
| ③ 耳 鼻 咽 喉 科 | 日 賀 久 雄 (日賀耳鼻咽喉科医院長) |
| ④ 眼 科 | 石 川 秀 夫 (石 川 眼 科医院長) |
| ⑤ 精 神 科 | 松 本 茂 幸 (国立療養所琉球病院長) |

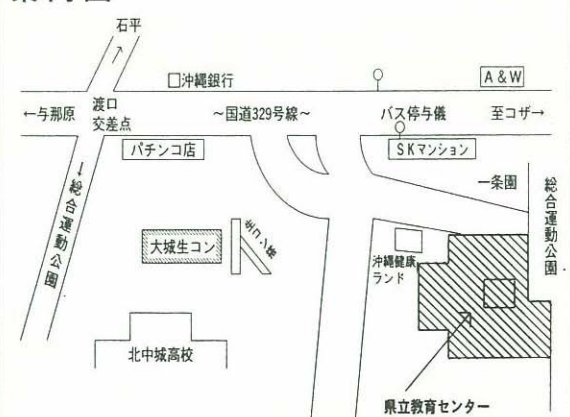
■ 特殊教育課職員による教育相談

- | | |
|--------------------|---------|
| ① 視覚・聴覚・言語障害教育 | 西 原 千 男 |
| ② 肢体不自由・病弱虚弱教育 | 玉 城 茂 |
| ③ 精神薄弱学習障害等・情緒障害教育 | 松 崎 保 弘 |

■ 平成8年度 配置学校と就学相談員

- | | |
|----------------|---------|
| ① 沖 縄 盲 学 校 教諭 | 平 良 たか子 |
| ② 沖 縄 ろう学校 教諭 | 金 城 由美子 |
| ③ 名 護 養護学校 教諭 | 仲 村 智 子 |
| ④ 美 咲 養護学校 教諭 | 長 浜 幸 子 |
| ⑤ 大 平 養護学校 教諭 | 仲 村 稔 |
| ⑥ 島 尻 養護学校 教諭 | 高 嶺 玲 子 |
| ⑦ 西 崎 養護学校 教諭 | 新 里 邦 子 |
| ⑧ 宮 古 養護学校 教諭 | 新 里 和 子 |
| ⑨ 八重山 養護学校 教諭 | 太 田 綾 子 |
| ⑩ 泡 瀬 養護学校 教諭 | 照 屋 悦 子 |

案内図



〒904-21 沖縄市字与儀587番地
電 話 (098) 933-7555
(内線 505)